

病診連携の地域医療を

安曇野赤十字病院長が筑北で講座



会員らの前で話す澤海院長

松本管内身体障害者福祉協会は13日、安曇野赤十字病院（安曇野市豊科）の澤海明人院長

長（62）の講座を筑北村の本城農村環境改善センター多目的ホールで開いた。澤海院長は「病院のかかり方」という

題で話し、会員ら約150人が聴いた。

澤海院長は、現在国が推進する診療所と総合病院が連携して一人の患者を診る「病診連携」について説明。病診連携では、患者はまず地域の診療所に行き、検査や手術が必要な場合は総合病院に行く流れになる。

「患者さんの情報を病院間で共有する、行政と協力しながらバスなどの移動手段を確保する、などスムーズな連携に向けて課題を解決しながら、地域の医師とタッグを組み、良い地域医療を構築したい」と話した。

同病院は2011年度から、医師、看護師らが地域に出向き、それぞれの専門分野について話す出前講座を行っている。同協会は年に1度開く健康教室の一環で澤海院長を招いた。